

平成26年1月30日（金）

東大和市立第二小学校

【平成26年度 教育課題研究指定校 東大和市立第二小学校 研究主題】

## 考 え を 深 め 合 う 子 の 育 成

—かかわりを大切にした授業を通して—

### （1）研究主題設定の理由

「考えを深め合う子の育成～かかわりを大切にした授業を通して～」を研究テーマとして掲げて2年目になりました。上記のテーマを設定するにあたり、二小の児童がかかえる課題やどのような児童に育って欲しいかについて話し合いました。話し合いの結果、言葉を大切にすることが必要であるということ、及び友達の意見を聞いて考えを深めていくことが何より大切ではないかという意見が多く出ました。

本校ではこれまで低学年は「国語科」、中・高学年は「社会科」という2つの教科を通して話し合い、学び合い、かかわり合う中で考えを深めていく研究実践を行っていました。3年のまとめを経て新たな研究テーマを設定するにあたり、今回は「言葉を大切にすること」「友達の意見をよく聞いて考えること」に重点をおく意味でも、全学年を「国語科」で統一しました。「よく考える子」は本校の重点目標でもあります。この目標を効果的に達成するためにも研究主題を「考えを深め合う子の育成」とし、サブテーマを「かかわりを大切にした授業を通して」とすることにしました。

「言葉」と「表現」を積極的に意識できるようにするため、これまでの読解方法に加えて一文一文、一語一語を丁寧に読み込んでいく一読総合法を積極的に取り入れました。その際、自分の考えを詳細に書き込めるワークシートを作成して子供達が自分の思考を明確化できるように工夫しました。一つの文章、一つの言葉のもつ表現の大きな意味合いを発見する喜びから、児童が文章を読み解く面白さに気づけるようにしました。その上で友達の意見をしっかりと聞き、考えを広げたり深めたりする授業を目指したいと考えました。そこで、本校では昨年度から上記の研究主題、上記の手法を用いて研究に取り組むことにしました。

通級学級であるくぬぎ学級では、サブテーマのかかわり合いを大切にという視点を念頭におき、「自立活動」を中心に、話し合いや協力を取り入れた活動で研究に取り組むこととしました。

### （2）研究経過

上記のテーマを掲げて、次のように研究を進めてきました。

<平成25年度>

授業研究や協議を重ねる中で、考えを深め合うために大切なことを以下のように確認し、分科会テーマにせまる授業づくりを目指しました。

- ・ 楽しく声に出して音読を表現読みすること
- ・ 文章中の「言葉」を大切にその意味や背景を考えること
- ・ 自分の考えや気づきをワークシートに書き出すこと
- ・ 意見を出し合える環境作りをすること

## 分科会テーマ

### 低学年分科会

「友達の意見を聞きたくなる、自分の意見を話したくなる学習を目指して」

1年 ころのつながりをよむ 『お手がみ』

### 中学年分科会

「友達の考えと比べ、自分の考えを広げる授業を目指して」

4年 願いを受け止めて読む 『一つの花』

### 高学年分科会

「友達のものの見方や考え方を知り、自分の考えを深め、広げる」

6年 本の世界を深める 『きつねの窓』

### くぬぎ分科会

「かかわり合いを大切にしたい授業 自立活動を中心に」

目と目で合図 ～楽しく演奏しよう～

## <平成26年度>

昨年度の成果を踏まえて、2年目である平成26年度は、児童同士の話し合い活動で考えを深め合うことに重点を置いて研究を進めていくことにしました。①考えをもち、書き出す②考えを話す③考えを聞く④考えを深める、という話し合いのステップを意識して授業づくりをしていきました。毎授業ごとに文章の一人読みと話し合いを行う授業を構成しました。大切にしたいのは以下の項目です。

- ・自分の考えや気づきを発表していくこと
- ・友達の意見を聞き、つなげたり比較しながら考えを深めること
- ・意見交流を楽しみ、意見を出し合える環境を作ること
- ・文章中の文法表現に着目してその意味と役割を考えること

## 分科会テーマ

### 低学年分科会

「友達の意見を聞きたくなる、自分の意見を話したくなる学習を目指して」

2年 思いを見つめて読む 『きつねのおきやくさま』

### 中学年分科会

「友達の考えと比べ、自分の考えを広げる授業を目指して」

3年 場面の様子を想像して読む 『モチモチの木』

### 高学年分科会

「友達のものの見方や考え方を知り、自分の考えを深め、広げる」

6年 人間を見つめて読む 『川とノリオ』

### くぬぎ分科会

「かかわり合いを大切にしたい授業 自立活動を中心に」

体育的活動 ～ベースボール型ゲーム～

### (3) 研究組織

低学年・中学年・高学年・くぬぎの4つの分科会を設定しました。専科教員は各分科会に分かれて所属しています。4つの分科会はそれぞれ発達段階に応じて分科会テーマを決め、授業研究を進めています。

### (4) ここまでの成果と課題

ここまでの各分科会の成果と課題は次の通りです。

#### 《低学年分科会》

##### 成果

- ・進んで音読に取り組み、友達の音読を聞き合うことで工夫して表現できるようになった。
- ・友達の意見を聞き、「つけたしで」「〇〇さんと似ている」などの言葉を使って自分の考えを発表する児童がでてきた。
- ・ワークシートに自分の考えを書ける児童が増えてきた。

##### 課題

- ・積極的に挙手をして発表する児童に限られてしまう。
- ・ワークシートに書かれた意見を、教師が把握したり話し合いの場で広げたりするのが難しい。

#### 《中学年分科会》

##### 成果

- ・自分の意見を書き込むことができるようになった。
- ・つなぎ言葉が有効に使えるようになった。
- ・話し合いが積極的になり、友達の意見に付け足すことが出来るようになった。

##### 課題

- ・グループ内の話し合いは活発に行えるが、クラス全体で話し合うとなると、自分の意見を言える子は少ない。
- ・長い物語だと、始めは意欲的に取り組めるが途中から飽きてしまうことがある。どのように場面を分けるか工夫が必要である。
- ・予想や空想になってしまっていることがあるので、文章中の言葉から根拠を見つけられるように指導する必要がある。
- ・話し合いが広がりすぎてしまうことがあるので、何について話し合うのか明確にする。

#### 《高学年分科会》

##### 成果

- ・6年生は昨年の成果が生きて、ワークシートへの書き込みによって考えを表現することが格段に上手になった。また、楽しんで活動している。
- ・先生と児童というやりとりだけでなく、児童同士の意見交換が活発に行われるようになった。
- ・社会科の学習内容が活かされ、難しい物語の背景についての理解が深まった。そのため、興味・関心を持って取り組めた。

## 課題

- ・意見を積極的に発言できない子に対しては、国語通信に意見を載せたり、順番やグループで発言の機会を与える等の配慮をしているが、さらなる工夫を考える必要がある。
- ・国語の授業に限らず、安心して発言できる環境作りが課題となる。
- ・児童が出した意見をどうまとめ、指導者のねらう柱につなげていくかが難しい。指導者自身がねらいを明確に持つ必要がある。

## 《くぬぎ分科会》

### 成果

- ・話し合いのツールとして、ホワイトボードを有効活用することができた。
- ・ホワイトボード上で具体物を操作することによって、自分や友達の守備位置や攻撃の仕方を視覚的に理解することができた。
- ・キックベースに必要な動きや役割を一部分ずつ（蹴る、捕る、走る、投げる、守備、攻撃等）学習することで、段階的に技能を身に付けることができた。
- ・キックベースのルールを工夫することで、児童同士のかかわりが増えた。また、チーム意識を高めることができた。

### 課題

- ・授業後の振り返りは、自己評価、担当教員からの評価で自己肯定感を高めることにつながったが、今後の発展目標として、児童同士で評価をし合う場を設ける必要がある。
- ・今回行ったコミュニケーションを促すための手立ては有効であった。この経験を児童同士の自然なかかわり合いにつなげられるよう、今後もコミュニケーション能力を高めるための活動を意図的に設定していく必要がある。

## 《まとめ》

ここまでの全体の成果として次の二つが挙げられます。

めあての1つだった「言葉」に注意深く着目し、その言葉や表現が文章中でどのような意味や役割を持っているかということについて敏感に気づくことができるようになりました。また、倒置法や比喩、擬人法等といった特別な文法表現を探し出し、なぜそこでこの表現が用いられるかについて考えられるようになりました。

また、ワークシートに書き出した自分の考えや気づきを積極的に発言できる児童が大幅に増えました。さらに、友達の発言につなげたり、違いをあきらかにしたりする児童も増えました。その中で自分の考えや発言が変化したり発展したりすることを楽しむことができました。

このような児童の変容を目の当たりにし、考えを深め合う児童にだんだんと育っているのではないかという手ごたえを感じています。

意見を活発に出し合うためには、何よりも安心して言い合い、聞き合える学級学年づくりが欠かせません。それは講師である白梅学園大学の白須富夫先生からも重要な素地として何度も指導を受けたことでもあります。安心して意見をぶつけ合える授業は児童にとっても非常に楽しいものとなる。今後も学級・学年・くぬぎ学級等全ての場面において話し合いができ、考えを深め合える授業づくりを目指していきます。

※研究紀要としてまとめてありますので、本校までお問い合わせください。